

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

- ・渋谷区という都心にある保育園だが、散歩に出ると代々木公園など自然に触れられる公園が多くあり、子どもたちは季節毎に身近な自然に触れて興味関心を深めている
- ・様々な事への探求心が深く、活動への興味を持って意欲的に関わる姿が多く見られる

2. 活動スケジュール

春 散策を楽しみながら身近な植物に触れて楽しむ

夏 夏野菜を育て観察しながら成長の様子に興味を持つ

遊びを通して風の動きや変化に興味を持って遊ぶ

秋 身近な自然物に触れて遊び込む

冬 講師を招いてこれまでの活動を深めながら自然に触れたり、探求を深めていく

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

<準備物>油性ペン、ビニール袋、針金、綿、

<環境>

- ・2～5歳児の異年齢児同士で準備した机に分かれて座る
- ・完成後、近隣の公園へ移動する

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・グループに分かれて気球となるビニール袋に自由に絵を描く
- ・気球が完成後、近隣の公園へ移動し気球をあげることに挑戦する

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

製作中は「何を描こうかな?」と自分のイメージを言葉にしなが、好きな色や模様を選ぶ姿が見られた。公園へ移動し気球が少し膨らむと「わあ!」と完成があがり、期待感が高まっていた。しかし、この日は気温が高く、気球は5cmほどしか上がらなかったのを見て不思議そうにする子や「もう一回やってみよう」と挑戦しようとする声もあった。保育者は、気温が高くて気球が上がらなかったことを「寒い日にやったらどうなるのかな?」と次につながる問いかけへと変換していった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

気球が高く浮かばなかった経験を通して、結果だけでなく過程の大切さや、自然条件が活動に影響することを学んだ。また、年齢に応じた関わり方や言葉がけの工夫が子どもの探求心を広げることにつながると気付いた。